

山下(與)氏寄贈 襖の下貼文書

No.	文書名	年号	西暦	差出人	宛名	形式	員数	受入番号	備考
1	(河内屋市兵衛が美濃川筋普請の杭木を300両で請負ったが杭木が集まらず損金を出し鍛冶町茂兵衛等と争い願い出た件)	戌・12・		堀市兵衛 中川佐兵衛	名主利兵衛殿 同断権兵衛殿	状	1	1	(断簡のため内容不明あり)
2	(新丁、小山町、新町、(十)日市町、川町の難澁者、御救金受取印帳)	—	—	—	—	横	1	2	(但、断簡綴り合せ)
3	(沢田家にかかわる手紙下書等)	—	—	—	—	状	3	3	
4	代人御願(澤田忠四郎を)	明治17・10・31	1884	澤田忠左工門	安濃津治安裁判所長(判事補 黒川口殿)	状	1	4	
5	(手習か)	—	—	—	—	状	1	5	
6	奉願口上(白子領寺家村伊左工門に借宅として貸す届)	—	—	—	—	状	1	6	(後切れ)
7	奉願口上(養子縁組の届)	寛政寅6・2・	1794	石橋町願主長右工門(印) 組久平(印) 同新助(印) 組頭清兵衛(印)	名主 太兵衛殿	状	1	7	
8	奉願口上(養子を不縁にしてもどす旨)	寛政寅6・2・	1794	願主新町 (万)三郎(印) 組喜右衛門(印)組弥右衛門 (印) 組忠兵衛(印)組頭七郎兵衛(印)	名主 太兵衛殿	状	1	8	
9	奉願口上(仁平家を清右衛門の粹一家に相続させたい届)	—	—	—	—	状	1	9	(異なった文書を貼り合わせてある)
10	後半は(養女の届)	寛政寅6・3・	1794	川町願主(不明)組小四郎 組頭次郎兵衛	名主 三太郎殿	状	1	9	
11	口上(争いを起した詫状)	戌・12・		茂兵衛 親久七 一家久六	(不明)	状	1	10	(異なった文書を貼り合わせてある)
12	(後半は内容不明)	寅・3・		(組)六兵衛(組)与助 組頭権八	名主 三太郎殿	状	1	10	
13	断簡(奉願口上、十日市町の清右衛門の世話で借家する届)及び(小山町五人組から願い)など	—	—	—	—	状	3	11	
14	奉願口上(凶作・飢饉のために宿場は不況で年賦金も納められない、盆前に払う馬給金や馬増銭等の拝借の願い)	—	—	—	—	状	1	12	(後切れ)(神戸宿のものと思われる)
15	(触書の一部、伝馬関係)	—	—	—	—	状	1	13	断簡

16	(源兵衛との争論で難儀している、とりあえず米250俵の切手が通用するよう秋まで拝借をお願いしたい旨)	寅・3・		川町治助(印)	鈴木又兵衛殿	状	1	14	(前一部分欠損)
17	口上之覚(包紙のみ)	—	—	—	—	—	1	15	
18	奉願口上(弥兵衛一家3人を川町庄助の世話で借家に住わせる届)	安永子9・8・	1780	十日市町願主庄三郎(印) 組頭儀兵衛(印) 組勘六(印)同平吉(印) 同六兵衛後家(印)同きん(印)	(不明)	状	1	16	(後切れ)
19	(町名主への届け)	安永子9・11・	1780	豎町願主(眼)佐(印) 組文六(印) 組藤右衛門(印) 組伝吉(印) 組頭利八(印)	名主長左衛門殿 同断文五郎殿	状	1	17	(前欠)
20	(町名主への届け)	安永子9・11・	1780	鍛冶町願主庄助(印) 組源助(印) 組清右工門(印) 組利右工門(印) 組利平(印) 組頭文蔵(印)	名主 孫八殿	状	1	18	(前欠)
21	(町名主への届)	安永子9・8・	1780	新丁願主、権七(印) 同七助(印) 同善六後家(印) 同彦四郎(印) 組佐兵衛(印)	豎町 名主長左衛門殿 同断文五郎殿	状	1	19	(前欠)
22	(借家に住居させる届か)	安永子9・8・	1780	十日市町願主藤助(印) 組頭長右衛門(印) 組利八(印) 同藤右衛門(印) 同弥兵衛後家(印)	名主 喜右衛門殿	状	1	20	(前欠)
23	(町名主への届)	安永子9・12・	1780	十日市町願主作兵衛(印) 組頭清右工門(印) 組基右工門(印) 同利右衛門(印)	名主 喜右衛門殿	状	1	21	(前欠)
24	奉願口上(引越の願い)	宝暦未・3・	1751 か 1763	願主九郎右工門後家(印) 組 平吉(印) 組 銀蔵(印) 組 久兵衛(印) 組 惣後家(印) 組頭 喜左工門(印)	加ち町 名主孫八殿	状	1	22	
25	奉願口上(養子として養てたが勘当する届)	天明辰4・正・	1784	十日市町願主半七(印) 組頭善吉(印) 組仁平治(印) 同武兵衛(印) 同伊兵衛(印)	名主 喜右工門殿	状	1	23	(後切れ)
26	(町名主への届、備中国倉敷へ引越の願)	天明丑元・6・	1781	十日市町 願主藤助(印) 大助(印) 組頭長右衛門(印) 組利八(印) 同藤右衛門(印)	名主 喜右工門殿	状	1	24	(前欠)

27	(町名主への届)			願主庄八(印) 組忠兵衛(印) 同孫七(印) 同七兵衛(印) 組頭半兵衛(印)	加ち町 名主孫八殿					(前欠)
28	奉願口上(不縁で新町の借宅へ移り 住む届)	明和卯8・6・	1771	願主豎町惣兵衛(印) 組吉兵衛(印) 同伊八(印) 同伊兵衛(印) 組頭彦三郎(印)	名主庄八郎殿 同断文五郎殿 同断長左衛門殿	状	1	25		
29	奉願口上(結婚し居住の届)			願主新丁そ(よ)(印) 組次郎兵衛(印) 同庄次郎(印) 同惣兵衛(印) 組頭市郎右衛門(印)	名主庄八郎殿 同断文五郎殿	状	1	27		
30	奉願口上(家屋敷を10両で売渡す 届)	安永未4・3・	1775	願主(廣伝)(印) 組兵右衛門(印) 同武兵衛(印) 同兵吉(印) 組頭孫七(印)	鍛冶町 名主孫八殿	状	1	28		
31	奉願口上(家屋敷を2両で売渡す届)			願主豎町 善八(印) 組長七(印) 同新六印 同惣八(印) (組頭)長左衛門(印)	名主庄八郎殿 同断文五郎殿	状	1	29		
32	奉願口上(年貢皆済のため家屋敷を 売拂い亀山鍋町へ引越の届)	不明		加ち町 願主善左工門(印) 組五郎三郎(印) 同半助(印) 組頭半兵衛印	—	状	1	30		(異なった文章をつないである) 天明4年及び名主の名は別のもの
33	断簡(天明4年のもの、その他)	—	—	—	—	状	2	31		
34	当残米金江戸下帳	寛政申12・12・	1800	—	—	豎か	1	32		(一部分のみ)
35	当残米金江戸下帳	文化巳6・12・	1809	—	—	豎か	1	33		(一部分のみ)
36	断簡(寺社奉行から本多伊予守への 手紙の写しと内容の連絡か)	・12・15		戸田采女正	本多伊予守様	状	1	34		
37	断簡(御隠居様の病状と投薬等の報 告)	—	—	—	—	状	1	35		腎臓病か
38	断簡(將軍・大納言の状況報告)	—	—	—	—	状	1	36		
39	断簡(御隠居様の情報連絡、御用人 へ縫殿頭様養生不叶逝去の報)	—	—	—	—	状	1	37		
40	断簡(雑)	—	—	—	—	一括	—	38		
41	(御着之節の役割分担と徒士の役割 表など)	—	—	—	—	状	—	39		(断簡)
42	追啓(御隠居様より御書が提出され たこの先御家中の中の交代は無い 旨の連絡)	・3・28		木村市兵衛 鈴木五助 中條仁兵衛	松野次郎左工門	状	1	40		(断簡)

43	(万兵衛の叔父増上寺で病死の連絡)	・12・24		木村市兵衛 鈴木五助 中條仁兵衛	—	状	1	41	(前・後切れ)
44	(断簡2点)	・2・8		三人	(五人様か)	—	2	42	
45	(五人様とは、中條次郎左衛門・神谷平左工門・林源五右工門・中條権右衛門・松野佐五右衛門のことか)	—	—	—	—	—	2	43	(断簡)
46	(龍谷寺で御法事があり御志として白蒸を御供、軽き野菜ではあるが儉約中のためと連絡あり了解した旨の連絡か)	—	—	—	—	—	2	44	(断簡)
47	(当夏御参府の御供触について)	—	—	—	—	—	1	45	(断簡)
48	(安藤対馬守へ御門書を渡された)	—	—	—	—	—	1	46	(断簡)
49	(殿様・上々様は御元気です等)	—	—	—	—	—	1	47	(断簡)
50	(御家中の面々に心得を大目付から触れることになった連絡)	—	—	—	—	—	1	48	(断簡)
51	(戸田伊賀守が元服し御よろこびを申し上げた京極周防守の病気が快復したなど)	—	—	—	—	—	1	49	(断簡)
52	(隆徳院の(23回忌か)の法事を済した旨など)	—	—	—	—	—	1	50	(断簡)
53	(浄願寺より願書が出たので、小川幸左衛門が承認した旨)	—	—	—	—	—	1	51	(断簡)
54	(御手紙を拝見した。19日杉浦惣八等が桑名表へいったのは叔父の死去のため)	—	—	—	—	—	1	52	(断簡)
55	(神谷、林、中條、松野の名 及び中條治郎左衛門の出した手紙)	—	—	—	—	—	2	53	(断簡)
56	(御定用金計50両を送るので受取の裏書をして出すように)	—	—	—	—	—	1	54	(断簡)
57	(申の春まで拝借金の願いか)	—	—	旅籠屋年番平七(印) 同長右衛門(印) 惣代善六印	□□左衛門殿	—	1	55	(断簡)
58	(源五右衛門の金子受取か)	—	—	—	—	—	1	56	(断簡)
59	(木村市兵衛の手紙)	—	—	木村市兵衛	—	—	1	57	(断簡)
60	(貸付帳の一部分か)	(明治期)	—	—	—	—	1	58	(断簡)
61	(14日便は拝見した御隠居様御用向の件～)	—	—	—	—	—	1	59	(断簡)
62	(下男が24日から行方不明になった)	—	—	—	—	—	1	60	(断簡)

63	(送ってくれた足軽・中間の用意金1両を八日の定日便で送る)	—	—	—	—	—	1	61	(断簡)
64	(殿様が6月に出られる差図が出た家中に伝えよ)	—	—	—	—	—	1	62	(断簡)
65	(八丁堀様内桜田門番が終了、戸田采女正様の未口様死去の報)	—	—	—	—	—	1	63	(断簡)
66	(御仕送方郷證文がついた、御定用金の差紙に裏書をしたものがついた松平玄蕃守のあととり乙五郎様へ)	—	—	—	—	—	1	64	(断簡)
67	(口徳院様の読経あり殿様も参拝沢丈助不行跡の件)	—	—	—	—	—	1	65	(断簡)
68	(参府の命令に五助が書を差出した水野出羽守様と本多弾正大弼様に1通ずつ差出したので写しを送る)	—	—	—	—	—	2	66	(断簡)
69	(断簡2枚)	—	—	—	—	—	2	67	(断簡)
70	(甲馬様御書入紙包の件)	—	—	—	—	—	1	68	(断簡)
71	(堀部弥八郎母貞真の件)	—	—	—	—	—	1	69	(断簡)
72	(御屋敷に到着した連絡)	—	—	—	—	—	1	70	(断簡)
73	(婚姻成立のお礼 御書院でお礼申上た)	—	—	—	—	—	1	71	(断簡)
74	(仕立師定助の件・隆奥院様十三回忌の件)	—	—	—	—	—	1	72	(断簡)
75	(大目付、御徒行目付立会で御免になった仕立師定助押込之件)	—	—	—	—	—	1	73	(断簡)
76	(芸術特礼金下付の名前)	—	—	—	—	—	1	74	(断簡)
77	追啓(定日便での送りが1両日おくれる)	—	—	—	—	—	1	75	(断簡)
78	御広間・鎗間諸など名前一覧	—	—	—	—	—	1	76	(断簡)
79	(関係武士の配置表一部分か)	—	—	—	—	—	1	77	(断簡)
80	覚(神戸米九俵受取)	・7・□	—	—	津田忠右工門様	状	1	78	(一部欠)
81	(止宿中の半四郎病死の扱い)	—	—	—	—	—	1	79	(断簡)
82	追啓(金子入封之受入)	—	—	—	—	—	2	80	(断簡)
83	追啓(御隠居様へ御書と砂糖10升が届けられた)	—	—	—	—	—	1	81	(断簡)
84	(御金の拂方の指令、女中付添の間病気の件)	—	—	—	—	—	1	82	(断簡)
85	(旅用御定之通2貫文渡し帰す)	—	—	—	—	—	2	83	(断簡)(高岡川)

86	(殿様御機嫌よく旅行し～)	—	—	—	—	—	1	84	(断簡)
87	(委細紙面の起承知の返事)	・12・24		三人	五人様	—	1	85	(断簡)
88	(御入用之内江百両指下るので差紙に裏書して差出すよう、江戸詣の面々は当残米金や外金入など三百八両三分式朱別の帳面で御指下)	—	—	—	—	—	1	86	(断簡)
89	(在府・定府の者は平常は綿服で対応せよ、特別差図の時絹服とする)	—	—	—	—	—	1	87	(断簡)
90	(金子受取の表書をして差戻すように採薬御用の為東海道から紀州へゆき帰路は和勢濃州より中山道で帰る宿々村々人馬継立をたのむ)	・12・24		三人	—	状	1	88	(断簡)
91	(御目見が無事済んだ、か)	—	—	—	—	—	1	89	(断簡)
92	(諸芸稽古は綿服で絹布を身につけていた場合は支配頭に届け許可をうけよ)	—	—	—	—	—	1	90	(断簡)
93	(細かくは後日報告のこと、道中順調なら9日に着く予定)	—	—	—	—	—	1	92	(断簡)
94	(紙面の趣承知した旨)	・4・8		三人	五人様	—	1	93	(断簡)
95	(到着について承知した、用意金1両も渡します)	・3・5		三人	五人様	—	1	94	(断簡)
96	(例年通り宗門改を済す、大沢八郎兵衛桑名から昨夕帰り届けありなど)	—	—	—	—	—	1	95	(断簡)
97	(16日に御返答書を受け取った旨の連絡)	—	—	—	—	—	1	96	(断簡)
98	(16日書状を受取った、当月御定用として金50両を差紙とともに送るので受取の裏書をして出すこと)	—	—	—	—	—	1	97	(断簡)
99	(女中旅用日雇方入用として20両を文内へ渡した。また、用意金として10両も)	—	—	—	—	状	1	98	(断簡)
100	(御用人からの呼出しで今朝宇右衛門が出頭、大納言の初御成の件で書状受取った)	—	—	—	—	状	1	99	(断簡)
101	(返済金の内百両を伊豆蔵源兵衛儀右工門へ為替、で送った。)か	—	—	—	—	状	1	100	(断簡)
102	(手紙を拝見し御入用として金百両伊豆蔵へ～)	—	—	—	—	状	1	101	(断簡)
103	(受取の裏書をして出すこと委細は次郎右工門殿より五助へ伝えてある旨の報告)	・3・28		(三か五か)人	—	状	1	102	(断簡)

105	(品川に宿して今朝高輪御屋敷へ立寄御隠居様に対面して食事をした)	—	—	—	—	状	1	103	(断簡)
106	(御供の者共役目を果した御手当などに御礼を申している)	—	—	—	—	状	1	104	(断簡)
107	(殿様が御着になり貴方の件は済した)	—	—	—	—	状	1	105	(断簡)
108	(書状末尾の人名、日付、宛名など断片)	—	—	—	—	状	4	106	(断簡)
109	(書状断片)	—	—	—	—		一括	107	
110	(御変りなく年の歳を迎える～)	—	—	—	—	状	1	108	(断簡)
111	(御抱屋敷の家作や両隣の件)	—	—	—	—	状	1	109	(断簡)
112	(御供之御家屋の御祝儀を済した～)	—	—	—	—	状	1	110	(断簡)
113	(御着座なされ披露、奥の女中にも祝いを申し上げ披露など)	—	—	—	—	状	1	111	(断簡)
114	(通り掛り御祝を申上、書院ではのしめを御用人に差上げたなどの連絡)	—	—	—	—	状	1	112	(断簡)
115	(14日に出された書状27日に拝見した書状を市兵衛より差上げたのでよろしく)	—	—	—	—	状	1	113	(断簡)
116	(南御屋敷の件 了解した～)	・5・28		三人	—	状	1	114	(断簡)
117	(御書入や紙包、金子入の封書の配り先について)	—	—	—	—	状	1	115	(断簡)
118	(五助が使者として隠岐守などに頼んだいづれも干鯛もっていた。肥後守の出棺に御隠居の命令で市兵衛が出席した)	—	—	—	—	状	1	116	(断簡)
119	(新地御改の長坂忠七郎より留守居へ申付けられた調査項目について)	—	—	—	—	状	1	117	(断簡)
120	(田中氏母よりの紙包2つの届け先)	—	—	—	—	状	1	118	(断簡)
121	断簡	—	—	—	—	—	3	119	
122	(土屋儀左工門が小笠原佐渡守の家来～)	—	—	—	—	状	1	120	(断簡)
123	杉浦(作)兵衛と同様弟なので～	—	—	—	—	状	1	121	(断簡)
124	(中西・田中両氏より御小納戸之者へ紙包三つ～)	—	—	—	—	状	1	122	(断簡)
125	(紙包の配布先など)	—	—	—	—	状	1	123	(断簡)
126	(公方様が今朝御供揃にて出られるので火の元などの触を出した)	・4・18		木村市兵衛花押 鈴木五助花押 中條仁兵衛花押	—	状	1	124	(断簡)

127	(紙包の届、及び市兵衛よりの書上のお願い)	—	—	—	—	状	1	125	(断簡)
128	(勘定目録を受取った御命令の通り過不足の取斗処理をいたします)	—	—	—	—	状	1	126	(断簡)
129	(御書の御返書を受けとりすぐ差上た、甲馬様からの封書次郎左工門殿へ)	—	—	—	—	状	1	127	(断簡)
130	(半減について届をした、木村伴六も母方の叔父に当るので忌服で～)	—	—	—	—	状	1	128	(断簡)
131	(足軽・中間を派遣した用意金1両を出した)	—	—	—	—	状	1	129	(断簡)
132	(證文と添状を受取ったら差紙に裏書をして、など2片)	—	—	—	—	状	2	130	(断簡)
133	(紙包・御用物入封書、手形入封書など宛先と差出人の連絡)	—	—	—	—	状	1	131	(断簡)
134	(御抱屋敷付近の往還・通りの名、横町や野路、川、用水の名を調べよ)	—	—	—	—	状	1	132	(断簡)
135	(申し越されたこと承知した報告と中西・鈴木両人道中旅用拂の件)	・6・		三人	四人様	状	1	133	(断簡)
136	(道中川支で11日についての報告)	・6・16		四人	—	状	1	134	(断簡)
137	(金子入・手形入封書や紙包の宛先と差出人の連絡)	—	—	—	—	状	1	135	(断簡)
138	(湯原初之助が近藤夏雲祝儀をもらった～)	(・3・28)		三人	—	状	1	136	(断簡)
139	(新家村(か)庄屋惣代より白木綿一疋差上候事)	—	—	—	—	状	1	137	(断簡)
140	(文書末尾、氏名のみ)	・3・5		木村市兵衛花押 鈴木五助花押 中條仁兵衛花押	—	状	1	138	(断簡)
141	(文章末尾、同役共に周知のこと)	・4・28		木村市兵衛花押(鈴木・中條もか)	—	状	1	139	(断簡)
142	(文章末尾、同役共に周知のこと)	・正・3		木村市兵衛花押 鈴木五助花押 中條仁兵衛花押	中條次郎左工門殿 神谷平左工門殿 林源五右工門殿	状	1	140	(断簡)
143	(文章末尾、同役共に周知のこと)	・6・18		田中此母花押 木村市兵衛花押 鈴木五助花押 佐藤宇右工門(病氣二付～) 中條次郎左工門	—	状	1	141	(断簡)
144	(文章末尾、同役共に周知のこと)	・12・25		木村市兵衛花押 鈴木五助花押 (中條も)	—	状	1	142	(断簡)
145	(文章末尾、同役共に周知のこと)	・3・18		木村市兵衛花押 鈴木五助花押 中條仁兵衛花押	—	状	1	143	(断簡)
146	追啓(手形入・金子入など計4通の宛先と差出人の連絡)	—	—	—	—	状	1	144	(断簡)
147	(父死去の為悴より忌服の届があった、また追啓として、御隠居様への書差上げたなど)	・12・18		三人	五人	状	1	145	



148	(足軽・中間等持参の書札拝見した。御用所に参上して御祝儀申し上げた。御隠居様江年末の御あいさつにいった。)	・正・18		三人	五人様	—	1	146	(異なった文書3通が貼り合である)
149	(コピー)覚(四日市宿問屋 西村・行方連印の神戸藩 林源五右エ門宛 料金受取証等)	—	—	—	—	—	—	147	参考として

襖の下貼で裁断されていて完結したものはないが、本多藩の国元と江戸藩邸の留守居との間で往来した連絡文を書留めた帳簿の断簡と推察されるので、この種の史料は現在残っていないこともあり、他の関係史料が出てくれば参考になる史料である。また一部神戸城下の町名主に関係した町行政の史料も含まれており、明和から天明期の町の様子を知る手がかりとなる。)



















